
第 30 章 教会の戒規

30.1. 主イエスは、教会の王また頭として、教会の中に政治を制定なさいました。それは国家的為政者とは区別され、教会の役員らによって執行されます（イザヤ 9:6, 7、I テモテ 5:17、I テサロニケ 5:12、使徒 20:17, 18、ヘブル 13:7, 17, 24、I コリント 12:28、マタイ 28:18-20）。

教会政治が、世俗政治から区別することを明白にしています。それは、英国国教会のエラスチアン主義を反駁するためです。エラスチアン主義は、聖書に定められた教会政治制度はなく、キリストも定めたこともないと言いながら、教会と世俗政治に区別がないと主張します。ウェストミンスター総会は、長老派政治を支持し、エラスチアン主義に対しては反対しました。更に清教徒たちは、ローマカトリック教会と英国国教会の聖職者たちの階級制度についても反対しました。しかし、ウェストミンスター総会以降、清教徒たちの間に、会衆主義者と長老派主義者の教会政治に対する論争がありました。

30.2. これらの役員に、天国のかぎが委ねられています。それによって彼らは、罪を保留させ、罪を赦す権限を持っていて、悔い改めない者に対しては、みことばと戒規によって天国の門を閉じ、悔い改める罪人には福音の働きと場合によっては、戒規の赦免として天国の門を開きます（マタイ 16:19、18:17, 18、I ヨハネ 20:21-23、II コリント 2:6-8）

教会の権限は、役員たちによって秩序を保って行事されるべきです。そして、教理と真理を宣言する権利が教会にあります。最も教会は、公衆礼拝の手順を規定する権限があります。2 項では、カギの権限というのは、教会の交わりを受け入れ、また不適格な人は交際から取り除ける権利があるということです。

30. 3. 教会の戒規が必要な理由は、罪を犯した兄弟らを取り戻すためです。同様な罪を犯すことを他の者に思いとどまらせるため、また粉全体を汚染させるあのパン種を除去するため、キリストの名誉と福音の聖なる告白を擁護するため、またもし、神の契約とその印証とが、極悪の頑固な犯罪者によって汚されるままにして置くならば、教会に臨むべき神の御怒りから避けられないからです（I コリント 5 章、I テモテ 5:20、マタイ 7:6、I テモテ 1:20、I コリント 11:27-34、ユダ 23）。

戒規の目的は、教会の純粋性を守るため、過ちを犯した兄弟らを立ち返らせて、他の兄弟たちに同じ罪を犯さないようにし、世に対して義と聖を現わすためなのです。

30. 4. このような目的らを、より効果的に達成するために、教会の役員たちは、当事者の罪の性質と程度に応じて、訓戒、主の聖餐の礼典からの一時的停止、また教会から除名などの処置を取ることができます（I テサロニケ 5:12、II テサロニケ 3:6, 14, 15、I コリント 5:4, 5, 13、マタイ 18:17、テト

教会の役員たちは、罪が軽く、重いかを判断して、戒規の程度を決定します。一時的なこととして、聖餐授与を限定的に停止できます。戒規の段階的順序は、私的な忠告と公的な忠告、そして受餐停止と教会からの除名です。